

輸出事業計画

※申請者名：越谷食肉輸出コンソーシアム、品目：牛肉

1. 輸出における現状と課題

【現状】

- 和牛肉輸出については「世界的な和食ブーム」や「和牛肉が持つ魅惑的な見た目、芳醇な味わい」等を背景に輸出額、量ともに毎年増加している。
- 一方、日本国内に目を向けると人口減少に起因する「国内消費量減少」並びに「和牛生産事業の維持」という課題を抱えており、この観点からも和牛肉輸出への対応強化は益々優先的に取り組むべき重要事項となっている。
- 本コンソーシアム構成員である5者は和牛輸出への取り組みを模索する中で、主要輸出先市場のアジア圏内においては「台湾」が将来的に有望市場になるであろうと予測し注目した。
- 台湾向け和牛輸出解禁前から輸出準備を進め、平成29年より和牛輸出を開始した。この度、更なる輸出拡大を目的にコンソーシアムを設立し、改めて取り組み強化を進めることとした。
- 台湾は日本と物理的及び文化的距離が世界の中で最も近い地域の一つであり、「和食文化・日本食材の高い人気」、「現地食文化と和牛肉の親和性の高さ」及び「現地人の日本訪問経験の多さ」など他の多くの国・地域にはない和牛肉にとっては優位となる要素を有している。
- そのため、外食業態、量販店、精肉店など幅広い末端業態において和牛肉が消費されている。

【課題】

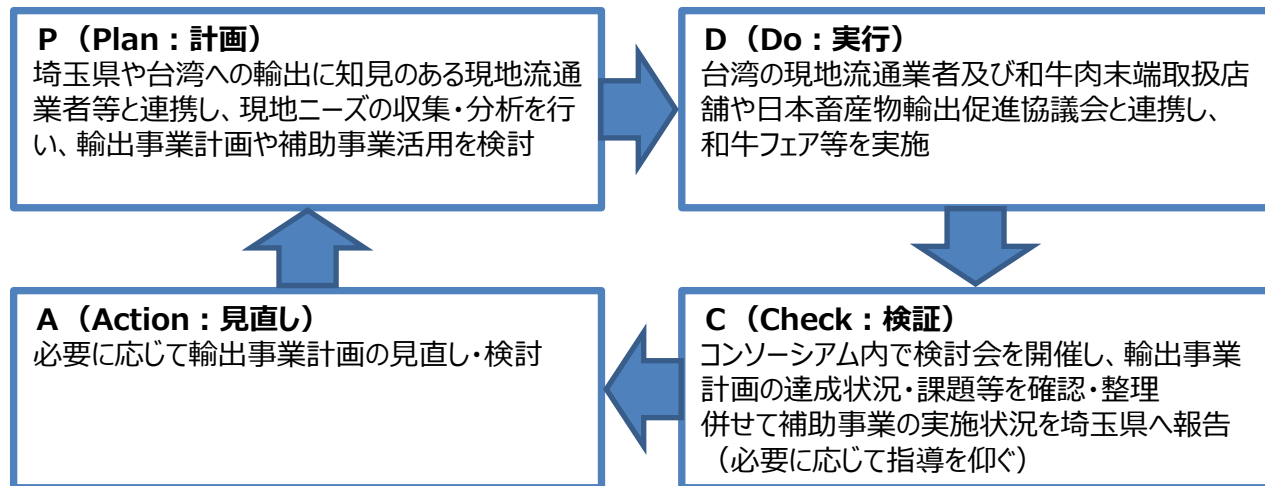
- 台湾での現地販売・末端消費は同地域独自の市場性から独自に発展しているが、正しく和牛肉の魅力、ポテンシャル及び多様性を理解し、活かしている販売・消費活動は限られている。
- 正確な情報をもとにした宣伝・啓蒙活動により、この点を軌道修正することで、現在取りこぼしている又は未発掘である末端消費を喚起し、更なる輸出拡大につながるであろうと考える。

2. 輸出事業計画の取組内容

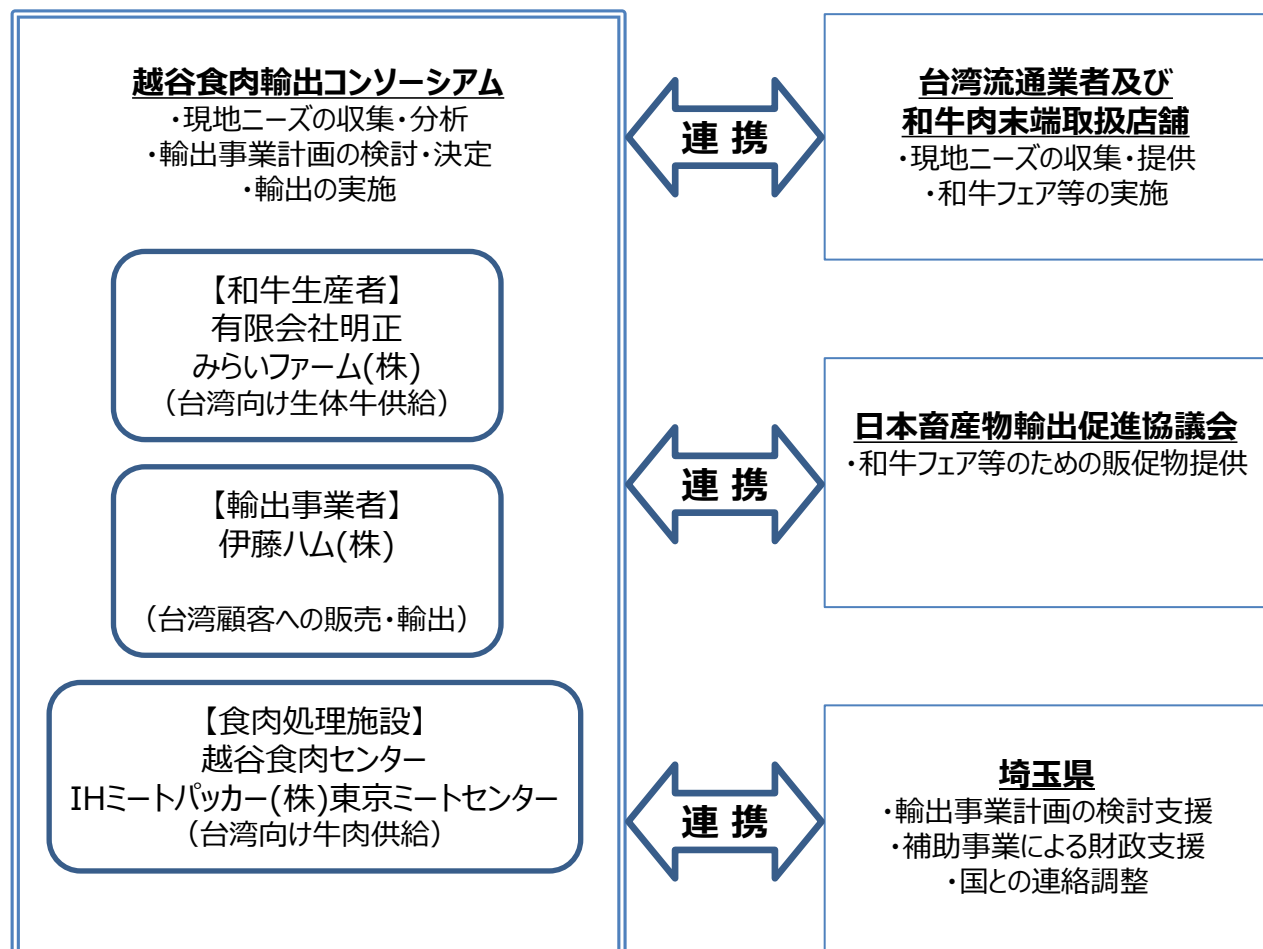
- 「構成員である和牛生産者のこだわりの生産方法」をはじめ、差別化したブランドやその品質の高さなどといった本コンソーシアムが供給する和牛肉の魅力的正しく理解でき、かつ五感で感じる機会を現地の末端消費者に提供する取り組みを実施する。
- 具体的には、現地飲食店の協力の下に、和牛肉喫食者に対し複数部位の和牛肉試食セットを無償提供する「現地消費先での和牛フェア」に取り組む。
- ヒレやロースのような高級部位とその他部位を食べ比べてもらうことで、和牛肉の多様な魅力を発信し、更なる消費を促していく。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

<PDCAサイクル図>



<連携体制図>



4. 輸出目標額

牛肉	現状（令和 2 年）	目標年（令和 5 年）
輸出額（円）	3,000,000	50,000,000
輸出量（t）	0.356	5
輸出先国・地域	台湾	台湾